



カンボジアの子どもたちに教育を

2008年4月 No. 25

カンボジア便り

1 体育施設その後

昨年9月に鉄棒が、11月に砂場（ジャンピングスペース）とバレーボールコートが完成しました。これらの施設がどんな風に使われているかを子どもたちの手紙でご報告します。



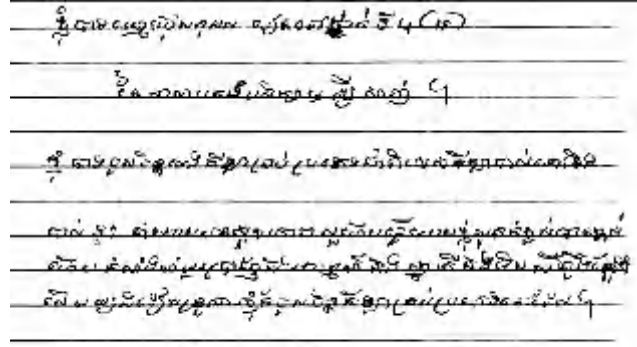
僕はフル・コサル、ルセイサン小学校の4年生です。色々なスポーツをするのが好きです。中でも一番好きなのがバレーボールです。背も伸びたし、頭もスッキリするし、健康になったと思います。僕の家では皆スポーツが大好きなんですよ。

私はソム・クンテア、13歳です。

休み時間にバレーボールや高飛びをするのが楽しみです。健康になったし、友だちとも仲良くなりました。

この他にも数通届いています。休み時間の楽しみ、健康に良い、の他に友だちと親しくなれたという子が何人かいるのが予想外の嬉しい話です。

～目	次～
カンボジア便り	
体育施設その後	1
幼稚園の工事が始まりました	2
アジア未来学校の近況	3
第4回「ビンの会」	4
ワンコリアフェスティバル	5
スタッフ紹介	5
学内で募金活動を行いました	6
事務連絡	6



コサル君のクメール語の手紙



2 幼稚園の工事がようやく始まりました！

昨年春からの懸案で、色々の情勢でスタートが遅れていた幼稚園の工事が、いよいよ3月28日に始まりました。完成は7月末を予定しています。

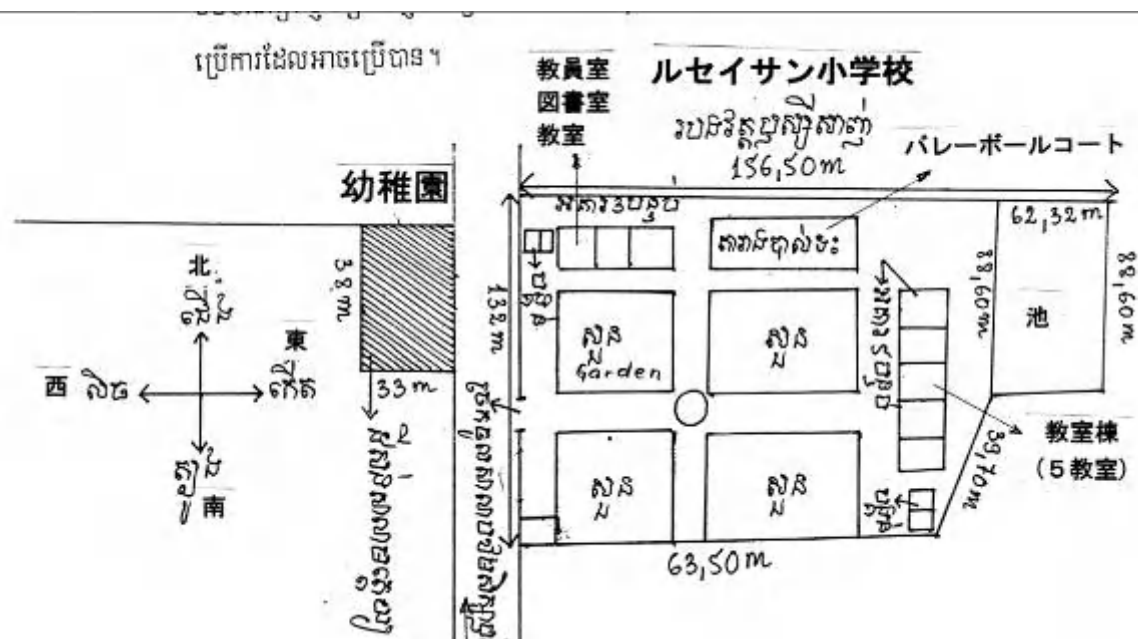
幼稚園は、私たちが運営する識字学校・アジア未来学校の修了生が通う、隣村の公立ルセイサン小学校に付属する形で開設されます。

このプログラムは、当会の現地提携団体であるポンロック・タマイのディレクター・リティさんが、ルセイサン小学校の校長先生を初めとする先生方、小学校のあるプラッカー村の村長さんや生徒の親御さんたち、村のお坊様と話し合い決めたもので、開設の目的は以下の通りです。

- a : 小学校の予備教育の場を作る
 - b : 小学校の隣接地に作ることで、子供が学校に慣れる
 - c : 子供が家庭にいない時間が増え、親がその間仕事ができる
- a と b は、小学校入学後の落ちこぼれ防止の効果があります。

建物は木造平屋建て16m×9m、144㎡、2教室で、学校との位置関係は下図のようになっています。

なおこの図は、幼稚園の土地がルセイサン小学校の所有であることを証明する権利書の地図の部分です。



2-1 費用について

最終的な契約金額は、総額21,292ドル（うち材料費17,104ドル、工賃4,188ドル）となりました。昨年6月の見積りでは14,300ドル、本年1月には19,300ドルで仮契約をしましたが、送金の安全性の確認に時間が掛かり、本契約では上記金額となり、当初より7,000ドルも上がってしまいました。円高が進んでいますので、円ベースでの差額は48万円となります。皆様の貴重なお金を効率よく使うことが出来ず、誠に申し訳ございません。

2-2 契約の内容について

a : 役所の承認

幼稚園開設は、プノンペン市教育・青年・スポーツ局の承認を得ています。なお、この承認書には「生徒の家族375世帯からの要求に従って承認する」となっています。

b : 土地の所有権

ルセイサン小学校の所有であることを権利書で確認しています。

c : 工事契約書

工事の契約書には、リティさんと工事業者の他、ルセイサン小学校校長とお寺のお坊様が保証人という形でサインをしています。なお工事業者のサム・チョン氏は学校のあるプッカー村の住人で、信用上もアフターサービスの面でも安心できる業者と言えます。

支払条件は、総額の40%を手付けとし、工事の進捗に従い30%、20%と支払い、残額10%の支払いは工事完成後6カ月後としています。

これらの動きは全てリティさんの考えによるもので、改めて彼の能力の高さに感心しました。



開始直後の基礎工事です。



4月21日には外壁のレンガ積みが始まりました。

3 アジア未来学校の近況

先生お二人からお手紙を頂きました。

・ シブン先生

生徒数は4人で、うち男の子が1人です。現在、初級・1・2・3と4冊ある識字教育教科書の「1」のレッスン24をやっています。

・ サンバート先生

生徒数は6人で、うち女の子が1人です。教科書1のレッスン4をやっています。

・ お二人の話。

牛の世話や、ごみ捨て場でのもの集め、両親の商売の手伝いなどのため学校に来られない子がいます。

(大澤)

「第4回ビビンの会~ともだち作ろう~」

4月19日(土)、「第4回ビビンの会~友だち作ろう~」を開催しました。今回は50名ものお客様に参加して頂き、スタッフを加えて総勢61名！前回より1時間延長して3時間を使って「他己紹介」「お茶会」「テーマに基づくグループディスカッション」「合唱」を楽しみました。

7グループに分かれて「他己紹介」がスタート。はじめは緊張している方、言葉が通じるか不安に思っている方もいらっしゃいましたが、しだいに緊張がほぐれ、みな相手のことを知ろうと熱心に話し込みました。また、今回の大きな共通点として「友だちを作りたい」「日本語(韓国語)を勉強したい」という方が多くいらっしゃいました。「お茶会」では、参加者持ち寄りのお菓子を食べながら談話します。人数が多いため教室はワイワイガヤガヤ！日韓がごちゃ混ぜになった教室を見渡すと、みんなが言葉の壁を乗り越え笑いながら、会話を楽しむ姿がとても印象的でした。

「テーマに基づくグループディスカッション」では日本と韓国の文化や習慣、韓国人が日本に留学し、日常で感じる相違点や共通点を話し合いました。私たちのグループはお酒というテーマで盛り上がりました！私が驚いたのは、日本人は20歳になって初めてお酒が飲めるのに対し、韓国人は大学進学と同時にお酒が飲めるようになるそうです。韓国人が羨ましいですね！また日本人の乾杯は初めの一回だけですが韓国人は飲むたびに乾杯する、など違いがありました。一方で、年上の人にお酒を注ぐ習慣は日韓共通でした。韓国人からは「日本人がコンビニで買ったお酒をコンビニの前で飲む姿や、電車内で飲む姿はとても不思議だ、韓国では公園や家でしか飲まない」という、どこでも飲んでしまう日本人!?という見方が面白かったです。グループ内でのディスカッションの後、各グループで発表を合いました。他のグループからは、「韓国にある兵役義務は、辛いですが心身共に強くなれる。カップルは兵役を機にほとんど別れる！軍隊に行っていない男は(彼女の父に)結婚を許してもらえない！」「韓国は地下鉄が安いし乗り方も簡単だけど、日本はメトロとJRがあってすごく複雑。それに高い！」という意見もありました。日本人だけでは、また韓国人だけでは知らない、気づかない目線での見方が興味深かったです。今回もみなさんが積極的にディスカッションに参加して下さいました。ビビンの会を通して知ることができた習慣や文化や価値観を、今度は家族や友人に広めてくれたらとても嬉しいです。

今回は韓国人のほかに、スタッフの中国人李君、また日本人とアメリカ人のハーフの方やマレーシアの方もいらっしゃいました。今後も国籍を問わず、年齢や性別に関係なく交流のできる「ビビンの会」であり続けます。日韓交流に関心のある方、国籍を超えて友だちを作りたい方、スタッフ一同、ご参加を心よりお待ちしております！！！！
(渡部)

初参加！ワンコリアフェスティバル

3月30日（日）に東京の代々木公園で行われたワンコリア2008（正式名称 ONEKOREA FESTIVAL TOKYO 2008）に参加しました。在日韓国・朝鮮人の学生たちと日本人の学生たちが一緒に、日本と韓国をつなぐ一翼を担うべく、大阪では毎年、東京では2年ごとに開催しているお祭りです。都内の焼肉店の出店、巨大鍋でのチゲナベ、韓国にルーツを持つアーティストによる演奏、そして会場内には、サムルノリ（韓国の農楽）のリズムが響いていました。

私たちはここにブースを出し、当基金の広報活動を行いました。スタッフ以外に、9人もの方がボランティアとして参加して下さいだったので、私たちのブースはとても賑やかでした。午後からは雨も降り出し、ブース要員はみんなホカロンを貼るといふ冬のような寒さの中、積極的にパンフレットを配布し、お客様とお話もしました。また、株式会社 生活総合サービス様から寄贈して頂いた入浴剤を、募金して下さいの方にプレゼントした結果、募金総額はなんと17,092円にも上りました。このようなイベントでの募金は、普通2、3千円も頂ければ多い方ですから、入浴剤の効果に驚きました。（矢崎）

スタッフ紹介

はじめまして。日韓で協力してアジアのために活動し、相互の理解・信頼を深めるといふ日韓アジア基金の理念に共感し、2月より活動に参加させて頂いている大町と申します。

高校の歴史の授業で、日本語に翻訳された韓国の歴史教科書を読む機会がありました。内容自体に強烈な印象をもつと同時に、少なからぬ同級生が、読後に韓国に対する嫌悪感を露わにしていたことにショックを受けました。互いの歴史を知り、互いが相手へのほんのちょっとした思いやりを持つことで、まったく違った日韓関係が築けるのではないかと。そんな思いから、大学では韓国研究を専攻しました。幸いにも、語学の勉強や、日韓 W 杯のあった2002年に交換留学生として滞在した韓国での1年間を通じて、多くの韓国の友人に出会うことができました。そうした友人と楽しい時間を共有するなかで、日韓関係を議論する際に、顔の見える友人がいることがどれだけ大切かということ、そして既に日本と韓国が世界の中で果たすべき責任はともに小さくなく、また日韓が協力することで果たせる役割の大きいことを知りました。

社会に出て以来、次第に韓国と疎遠になるなかで、当基金との出会いは、こうした思いを思い出させてくれました。日韓で協力してアジアに貢献するという当基金の活動に参加させて頂けること（現在、ホームページの韓国語訳をお手伝いしています）、そして活動を通じて国籍・年齢を超えた多くの方と新しくお会いできることを、とても有り難く思っています。今後とも宜しくお願い致します。

会社員 大町卓也



私は1月25日から1週間、在籍する大学で日韓アジア基金の募金活動を行いました。小規模な大学のうえ、試験期間と重なって、成果が上がるかどうか見通しが立たず、不安もありました。

活動時間は昼休みの30分間、大学当局に人通りの少ない正面玄関付近を指定され、私は募金が集まるかどうか心配でした。初日は雨で人通りは疎らなうえ、殆どの方が興味のないような雰囲気でした。初日の募金は何と122円！予想をはるかに下回る金額に気を落としましたが、3日目から友人が手伝ってくれて、募金総額はやっと4桁になりました！

その後学生たちの間にわかにNPO活動に興味を持つ者が出て来ました。集まった募金は小額でしたが、日韓アジア基金の広報活動をするるとともにボランティア活動を広めることが出来たと思います。

次回ビビンの会のお報せ

6月21日(土) 14時～17時 東京千石のアジア文化会館で行います。終了後、懇親会も予定しています。

参加希望の方は、件名に「ビビンの会参加希望」、本文に、氏名（フリガナ）、国籍、性別、年齢、懇親会への参加の有無をご記入の上、この頁下欄の<お問い合わせ先>までご連絡下さい。こちらから詳細をご連絡します。

08年1月16日～4月7日までに会費・ご寄付を下された方(敬称略・五十音順)

阿南 糸代	遠藤 保弘	大町 卓也	小長 井晶子	鋤柄 慎吾	津布 久元子	古川 かおる	山根 寛
油谷 友加	王 嶺	小川 英	小林 栄次郎	高木 修	長島 和子	星 光雄	山本 トシミ
荒川 雄彦	大澤 龍	小田 成久	佐藤 和之	高木 桂子	平塚 千尋	堀川 泰義	吉野 早苗
井上 卓也	大坪 玲子	神田 幸子	城田 実	田中 節子	福本 正勝	矢崎 芽生	

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員：年会費5,000円(学生、未成年者 2,000円)
 賛助会員：年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
 法人会員：年会費1口10万円
 ご寄付：2,000円以上おいくらでも

<郵便局振替口座>
 口座番号 00180-2-25153
 口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員：活動に積極的にご参加いただける方。総会での議決権があります。
- ・賛助会員：定期的にご支援いただける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

国内経費は全額スタッフ有志の寄付によっており、外部の方からのご支援は全てカンボジアに送っています。

<お問い合わせ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
 Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
 E-メール: jkaf@ml.infoseek.co.jp HP: iloveasiafund.com/japan/
 発行人 特定非営利活動法人日韓アジア基金・日本代表理事江本哲也